


SHOSTAKOVICH

SÉRIE DE MUSIQUE DE CHAMBRE NAGAKO MATANO **MOMENTS MUSICAUX no.5**

Sonate pour piano et violon op.134 / Sonate pour piano et violoncelle op.40 / Trio pour piano, violon et violoncelle no.2 op.67
Nagako MATANO : Piano / George BABUADZE : Violon / Noboru KAMIMURA : Violoncelle

俣野修子室内楽シリーズ **楽興の時** 最終回 SHOSTAKOVICH 2013.11/10(日) 5:00 p.m.
(4:30 p.m. 開場)

イシハラホール 地下鉄四つ橋線「肥後橋」5B出口

■マネジメント・お問い合わせ  大阪アーティスト協会 tel: 06-6135-0503 ■入場料 全自由席 一般¥4000 / 学生¥2500 小学生よりご入場いただけます / ペアチケット¥7000 マネジメントのみお取り扱い

■チケットお取扱い 大阪アーティスト協会 チケット専用ダイヤル: 050-5510-9645 / ローソンチケット 0570-084-005 (Lコード: 54011) / イシハラホール 06-6444-5875 / ピティナ <http://www.piano.or.jp/concert/support/>

■助成 公益財団法人 日本室内楽振興財団 ■後援 京都市立芸術大学 音楽学部 / 公益社団法人 日本演奏連盟 / 一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会

侯野修子室内楽シリーズ

楽興の時 最終回 SHOSTAKOVICH

2013. 11/10 (日) 5:00 p.m.

インハラホール

SHOSTAKOVICH

ピアノとヴァイオリンのためのソナタ op.134

ピアノとチェロのためのソナタ op.40

ピアノ・ヴァイオリン・チェロのための三重奏曲 no.2 op.67



■ 侯野 修子 Nagako MATANO: Piano

京都市生まれ。

ジュネーヴ音楽院 演奏家課程 (post-graduate course) 首席修了。

音楽作品の深い解釈に定評のあったL.ヒルトブラン教授に師事し、薫陶を受ける。同音楽院在学中より、スイス・フランスでのリサイタル等、演奏活動を始め、修了時には、パデレフスキー記念フィリップネッティ特別賞を受賞。

1985年、大阪にてデビューリサイタル開催。以後、東京、大阪でリサイタル、日本各地でジョイントリサイタルの他、奈良場恒美氏、岸邊百々雄氏、上村昇氏、テレマン室内管弦楽団、モーツァルト室内管弦楽団、スロバキア四重奏団、M・ノスティッツ弦楽四重奏団、ベルリン弦楽四重奏団等、国内外の音楽家と数多く共演し、関東・関西を中心に、ソロ・室内楽の分野で意欲的な演奏活動を行っている。

中でも、2003～2009年のシリーズ『侯野修子 モーツァルトとシューベルトのタバ』では、その美しい響きと豊かなイマジネーションに彩られたモーツァルトや深い人間性のしみ出たシューベルトが、好評を博した。

2009年秋にスタートした、この室内楽シリーズ『楽興の時』は、ベートーヴェン～シューベルト～ブラームス～フランスの作曲家たち～と展開、今回のショスタコヴィチで完結する。

現在、京都市立芸術大学において、後進の指導にあたっている。

SÉRIE DE MUSIQUE DE CHAMBRE NAGAKO MATANO MOMENTS MUSICAUX no.5 SHOSTAKOVICH

■ ギオルギ・バブアゼ George BABUADZE: Violon



61年グルジア国トリビシ生まれ。国立トリビシ音楽院にてヴァイオリンをシウカシュヴィリ教授に師事。在学中より、モスクワにてポロディン弦楽四重奏団ベルリンスキー氏に弦楽四重奏を学ぶ。卒業後は、研究科を経て大学院に進み指揮法をオディセイ・ディミトリアディ氏に師事。88年より2年間バトウミ市交響楽団の指揮者を務め、90年からはグルジア音楽協会室内管弦楽団芸術監督及び首席指揮者としてフランス・ドイツへ演奏旅行。93年にイタリアに渡り、オーケストラのヴァイオリン奏者として諸都市で演奏する傍ら、グルジア弦楽四重奏団メンバーとしても活躍。96年9月大阪シンフォニカ交響楽団コンサートマスターとして来日。98年トリビシ弦楽四重奏団結成。01年10月関西フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター就任。02年より京都市立芸術大学ヴァイオリン専攻非常勤講師も務める。04年ボルジョミ(グルジア)の国際音楽祭に参加、グルジア国立室内合奏団を指揮し好評を得る。12月には同合奏団を率いドイツ演奏旅行を成功させる。06年1月グルジア国立歌劇場客演指揮者就任、益々の活躍が期待されている。

■ 上村 昇 Noboru KAMIMURA: Violoncelle



京都市立芸術大学卒業。黒沼俊夫氏、ピエール・フルニエ氏、ハーヴィー・シャピロ氏に師事。

1977年、第46回日本音楽コンクール第1位。海外派遣コンクール松下賞受賞。

79年第6回カサド国際チェロ・コンクール優勝後、ヨーロッパ各地で活躍。国内の主要オーケストラを始め、プラハ交響楽団、ノイマン指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団等と共演。各地でのリサイタルの他、室内楽の分野においても国内外のアーティスト達からの信頼も厚い。また、98年にアルティ弦楽四重奏団(ヴァイオリン 豊嶋泰嗣・矢部達哉・ヴィオラ 川本嘉子)を結成し、以来定期的に公演を行っている。

現在、母校の京都市立芸術大学教授、桐朋学園大学特任教授として後進の指導にあたっている。